

# 平成30年生駒市教育委員会第8回定例会会議録

1 日 時 平成30年8月27日(月) 午前9時37分～午前11時2分

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

## 3 審査事項

- (1) 報告第13号 臨時代理につき承認を求めることについて  
(平成30年生駒市議会第5回(8月)臨時会提出議案の意見について)
- (2) 報告第14号 平成30年生駒市議会第5回(8月)臨時会提出議案の結果について
- (3) 報告第15号 平成30年度全国及び奈良県学力・学習状況調査の結果について
- (4) 議案第15号 平成30年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について
- (5) 議案第20号 平成30年生駒市議会第6回(9月)定例会提出議案の意見について

## 4 出席委員

教育長	中 田 好 昭		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委員	寺 田 詩 子
委員	神 澤 創	委員	浦 林 直 子
委員	坪 井 美 佐	委員	レイノルズあい
委員	西 井 久 之		

## 5 事務局職員出席者

教育振興部長	真 銅 宏	生涯学習部長	八 重 史 子
教育振興部次長	吉 川 和 博	教育総務課長	辻 中 伸 弘
教育指導課長	城 野 聖 一	学校給食センター所長	植 島 秀 史
こども課長	前 川 好 啓	こども課指導主事	川 田 奈 津 子
こども課指導主事	新 土 和 美	子育て支援総合センター	辻 本 多 佳 子
生涯学習課長	向 田 真 理 子	図書館長	西 野 貴 子
スポーツ振興課長	吉 岡 秀 高	教育総務課課長補佐	山 本 英 樹
教育指導課課長補佐	滝 澤 治 生	こども課課長補佐	松 田 悟
生涯学習課課長補佐	梅 谷 信 行	スポーツ振興課課長補佐	西 政 仁
教育総務課(書記)	牧 井 望	教育総務課(書記)	鬼 頭 永 実

6 傍聴者 0名

午前9時37分 開会

○開会宣告

○日程第1 第7回定例会並びに第3回及び第4回臨時会会議録の承認

○日程第2 会期・会議時間の決定

○日程第3 諸般報告

・9月の行事予定について、辻中教育総務課長、向田生涯学習課長から報告  
(質疑)

西井委員：10日の桜ヶ丘小学校の訪日学校訪問について詳細を伺いたい。

城野課長：県の事業で、県より照会があり、受入れをしたものである。当日は、児童同士で音楽の交流を行う予定である。

イノブ委員：学校教育のあり方検討委員会について、議事録はホームページにて確認できるのか。

辻中課長：当該会議の次回会議にて各委員に確認をしていただいてから、ホームページに公開できるようになる。

中田教育長：学校教育のあり方検討委員会について、それぞれの部会の現時点での進捗について報告を受けたい。

辻中課長：学校規模適正化部会については、現在小中一貫教育の検証をしている。第1回会議では生駒北小中学校の2年間実績報告をした。第2回以降の会議では、委員の皆様からご意見をいただき、一貫教育について議論する予定である。

城野課長：教育環境向上部会では、第1回会議にてそれぞれの学校の現状報告をしていただいた。その後、8月10日、17日、21日の3回にわたって教職員の働き方に関するワークショップを開催した。そしてワークショップの実施報告の概要を受け、29日に第2回会議を開催する。第3回において最終的な報告をさせていただき、審議し、中間報告をしていただく予定である。

前川課長：就学前教育・保育部会については、8月1日に第1回会議を開催し、就学前教育・保育のあり方に関する基本方針を共有した。9月26日に第2回会議を開催し、個別の課題を伺い、適正な学級編成、預かり保育について議論していく。

中田教育長：どの部会も第1回会議を実施し、第2回会議に向けて準備をしている状況である。いずれも現状認識をしていただき、次に課題発見・整理に向かっている。今後、課題を踏まえて議論をしていただき、成果が形になった段階で教育委員会にも報告していただく。

浦林委員：8日の障がい（児）者スポーツ活動支援体育館・グラウンド開放事業とあるが、暑い時期での実施でもあり、詳しい内容を伺いたい。

吉岡課長：夏には屋内温水プールの開放を行ったが、9月はグラウンド、体育館を開放し、障がい（児）者向けスポーツなどをさせていただく。ボールプールやトランポリンで自由に遊ぶコーナーと、指導員が付く教室がある。

西課長補佐：教室については、走り方教室、リズムダンスがある。走り方教室については、グラウンドにて実施予定であるが、暑い時期であるので、様子を見て、屋内での実施も検討する。各生活支援センター等の事業と重ならないように調整した結果、暑さの残る時期の実施となってしまったが、暑さ対策をしながら実施していく予定である。

浦林委員：大変素晴らしい取組なので、障がいのある方が対象ということで、安全第一でお願いしたい。

○日程第4 報告第13号 臨時代理につき承認を求めることについて(平成30年生駒市議会第5回(8月)臨時会提出議案の意見について)

・平成30年生駒市議会第5回(8月)臨時会提出議案の意見について、辻中教育総務課長から説明

＜参照：議案書p1、資料1＞

(質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 報告第14号 平成30年生駒市議会第5回(8月)臨時会提出議案の結果について

・平成30年生駒市議会第5回(8月)臨時会提出議案の結果について、辻中教育総務課長から説明

＜参照：議案書p5＞

(質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第6 報告第15号 平成30年度全国及び奈良県学力・学習状況調査の結果について

・平成30年度全国及び奈良県学力・学習状況調査の結果について、城野教育指導課長から説明

＜参照：議案書p6、別冊2、3＞

(質疑)

寺田委員：事務局では、本結果を受け、考察し、指導していただいている。各校では結果を受け、それぞれどのように取組が行われているのか。

城野課長：結果を踏まえ、次年度の教育目標の決定や、教育活動に役立てている。

寺田委員：生駒市の子どもたちは、学力面では秀でていますが、行動や考え方について、別冊1の8ページ「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問が県平均を下回っているのが印象的だった。児童・生徒らの自尊感情を育むには、個々の先生方の児童・生徒への接し方が重要であると思う。個々の先生方が児童・生徒への接し方を見直し、改善に向けて取り組んでいただきたい。

飯島委員：寺田委員がご指摘された設問については、小・中学校共に低い。また、別冊2の12ページの「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問について、小学校では「あてはまる」という回答が全国・県平均より多い一方で、中学校では低い。必ずしも関連しないとは思いますが、先生に自分の良いところを認められていると思うと、人の役に立つ人間になれると感じられるだろう。先生が自分の良いところを認めてくれているという実感が無いことが、結果として顕著に出てしまっているのも、そのことを意識しながら児童・生徒らに接していくよう、呼びかけていただきたい。本項目については、次年度に直ちに数値が上がるものではなく、今後数年間かけて徐々に数値が上がっていくものだと思う。校長を中心に、各校の実態に即して、先生方の指導に当たる意識を改善していただきたい。

西井委員：点数さえ良ければいいという、偏った価値観が全体を支配していると思う。児童・生徒らも、点数によってしか評価されていない気持ちになってしまう。本来、成績や評価とは、テストの点数のみによってではなく、ノートの取り方や授業中の発言との総合によって決定されなければならない。小学校では通知表に多様な観点から評価を記載できていると思うが、中学校では進学との兼ね合いもあるので、点数による評価にならざるを得ない現状であろう。夢を持っているかに関しても、親も含めて、偏差値や点数だけでしか将来を見ることができなくなっている。自分にはそれ以外にも良い部分があると児童・生徒らに実感してもらいたい。別冊1の4ページには、夢を育てるのは学校の役目と記載されている。夢を育てるのは必ずしも学校だけではないと思うが、点数だけではない、多様な夢の見方があるということは教えていきたい。大人も含めて、芸術性などのより多様な価値観を持たなくては、子どもたちの未来を拓くことはできない。

坪井委員：西井委員のご発言をうけて、自己有用感が成績に直結してしまっている現状を打破するために、図書室をより活用していくべきだと思う。図書室を、教室・部活動に続いて、学校の中でのサードプレイスとして、生

きる意義や楽しさを知り、勉強以外のことや自分自身のことについて考える場所にしてほしい。図書室が読書離れを改善する為だけの場所ではなく、図書室を居場所として活用する児童・生徒が増えることを期待したい。

西井委員：中学校の図書室は、小学校に比べてあまり開室できていないのではないかな。

城野課長：以前学校に照会をかけた際には、図書委員を中心に朝や放課後も開室していただいていることを把握している。

神澤委員：将来の夢については、大学生でも具体的にイメージできている者は少ない。いい大学に入ることは、目標であって夢ではなく、どんな大人になりたいのかという将来のビジョンが夢だと思う。今後生駒市独自で調査を行う際など、将来就きたい職業を聞くと、現状の把握ができるだろう。また、表記について、全ての設問に10までの枠を作っていたが、4択の設問については、5以降を消すと分かりやすいので、次年度以降変更していただきたい。

レイルス委員：奈良県の調査は、中学校のみであるが、理由はあるのか。

城野課長：今年度より、小学校4年生については、児童のこころと生活等に関する調査を実施しており、廃止となった。なお、小学校4年生対象の調査については、学校へのフィードバックに留まり、一般には非公開である。

中田教育長：理由としては、3年間実施した中で、学力・学習状況については他学年との相関関係をつかみにくく、調査に効果を感じられないためとしている。学力・学習状況よりもこころの面に関する調査をする方が有意義という見解である。

レイルス委員：今後、比較していくのに必要性が高いと感じていたため、廃止は残念である。今回、個人的に昨年・一昨年と比較した。毎年文言は変わっているが、別冊2の15ページ「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ていたと思いますか」については、去年は60%、今年は80%が「思う」と回答している。同じように県全体の数値も上がっており、20ポイントも上がると、違和感がある。また別冊2の13ページ「人の気持ちを考えられる人間になりたいと思いますか」については、97.1%が「思う」と回答した。一昨年も97%だが、去年は50%ほどであり、昨年度の結果に何か不備があったことが考えられる。たとえ良い方向に効果が出ているにしても、どのような取り組みの成果なのか、生徒にとって何が良かったのかを検証することも大切である。また、本調査結果は教育現場への通信簿であり、教育現場が子どもたちにどのように働きかけて、改善していく余地があるかを数値評価されているものだと思う。昨年度の全国の調査では「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見

の良さを生かしたり、折り合いをつけて話し合い、意見をまとめていますか」という設問があり、会議でも意見を申し上げたが、今年度はなかった。アクティブラーニングについての設問自体が減っており、内容が薄くなってしまっていると感じた。生駒市は話し合う活動において、児童・生徒らが意見を深めることがあまりできていない、実感できていないと結果が出ており、今後改善策を講じるに当たっても、関連するより多くの検証材料が必要である。アクティブラーニングを取り入れることは全国的な流れとしてあるので、関連する設問を増やすように何かの機会があれば、要望していただきたい。

中田教育長：多くのご意見を頂いたので、取りまとめ、県への要望を上げていただきたいたい。全国の調査については、難しいかもしれないが機会があれば発言したい。

飯島委員：要望であるが、別冊3の14ページ「自分の住んでいる地域の行事に参加していますか」、「自分の住んでいる地域が好きですか」について、県に比べて数値が高かった。自分の地域が好きで、地域参加している児童・生徒が多いというのは素晴らしいことなので、学校でも地域のことを更によく知り、更に好きになれるように、また地域の行事に参加しやすいように、工夫していただきたいたい。また、全国学力・学習状況調査の中で算数・数学・理科について、学力は高い一方で、科目が好きかという設問は、低い結果となっている。好き嫌いと得手不得手の相関関係が見えない。算数・数学の学習や理科の実験が好きになれば、更に子どもたちの潜在能力が発揮されるし、児童・生徒らも学習を楽しめるだろう。児童・生徒らがそれらの科目を好きではない、役に立たないと思っている原因を研究していただきたいたい。

浦林委員：毎年本結果が公表されるにあたり、保護者の間では、学力面のみが注目されていると感じる。子どもたちがクラスの中で、クラスメイトとどのように話し合いをし、協調性を育んでいるのかについては、保護者としても評価しにくい。また、調査の時期が4月であることを考えると、調査時点では、児童・生徒らもクラスで話し合いができていているという実感がないかと思う。本調査結果のみをもって、アクティブラーニングが出来ていないと評価するのは、実情とのずれが生じてしまうだろう。年度末の教職員・児童・生徒・保護者へのアンケートがあるが、話し合いができていているか、規範意識が身につけているのかなど、調査されていると思う。アクティブラーニングの評価については、そのアンケート結果も公表し、1年間のクラス活動で話し合いにどのような変化があったのか、教職員はどう考えているのか、また保護者には子どもたちのどのような点を見てほしいのかなど、学校の中での研究に留めるのではなく、保護者にも発信していただきたいたいと思う。

城野課長：様々なご意見を頂いた。学校に報告し、学校での取組に反映されるように働きかけていきたい。

**審議結果 【報告のとおり承認】**

○日程第7 議案第15号 平成30年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

- ・平成30年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について、真銅教育振興部長から説明

<参照：議案書 p 7 >

(質疑)

飯島委員：感想であるが、数値を挙げて、具体的で丁寧にしてください。点検評価委員からのご意見についても、建設的で具体的にご意見を頂けたと思う。点検評価委員からの評価について、私も希望を出した部分であるが、Aよりもいい評価を付けたいという思いがある。評価の細分化をしていていただきたい。

レイルス委員：もう一步先に進むために、今回の結果を以前と比較できるようになれば、教育委員会の取り組みについて、市民の目からも評価しやすいと思う。以前の数値、今回の数値、そして今年度の目標値を並べることで、その事業の成長を見て取ることが出来、その評価が適切かということが一目でわかるのが良いだろう。ホームページに公表して、教育委員会の活動・取組み内容について、市民の皆様にご納得いただくためには、ご自身で比較、検討していただけるものが良いと思う。他市では、写真を添付するなどの工夫も見受けられる。この形になって2年目で、来年からも変更しながらより良いものにしていていただきたい。

**審議結果 【原案のとおり可決】**

○日程第8 議案第20号 平成30年生駒市議会第6回（9月）定例会提出議案の意見について

- ・平成30年生駒市議会第6回（9月）定例会提出議案の意見について、前川こども課長から説明

<参照：議案書 p 8 >

(質疑)

レイルス委員：国の改正に伴って生駒市でも改正するものか。

中田教育長：そのとおりである。生駒市独自のものではない。

レイルス委員：食事の確保や保育士の確保、園庭の利用等について、現場にとって、より柔軟になったという理解で良いか。

中田教育長：そのとおりである。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第9 その他

- ・小中学校へのエアコン整備に係る街頭募金の結果等について、辻中教育総務課長から説明

<参考：その他資料1>

(質疑) なし

- ・市内小中学校における熱中症発生状況及び熱中症予防を含めた児童生徒の健康確保に向けた対応の徹底について、城野指導課長より説明  
(質疑)

中田教育長：国からの通知としては、猛暑の続く中で2学期を迎えるに当たって、地域の特性に合わせて対策をするようにという趣旨である。8月の部活動中は救急搬送が0件だったという結果は、各校での熱中症対策の取組が功を奏したと言える。今後も学校・保護者にご協力を頂き、子どもたちの安全・健康を守っていきたい。

レikalズ委員：現場と事務局の連携によって、今年の猛暑をしのいだと言える。感謝したい。

西井委員：教育課程も含めて配慮することが通知されているので、2学期が始まってからも、その日の暑さによっては短縮授業も視野に入れなくてはならない。これまでは授業時間の確保から極力短縮授業をしないようにしてきたが、この猛暑なので短縮授業による対応も含めて、現場にて柔軟に判断できるようにしていただきたい。

- ・台風20号に伴う被害状況等について、辻中教育総務課長、向田生涯学習課長、吉岡スポーツ振興課長から説明  
(質疑)

中田教育長：避難者はいつも同じ方なのか。

向田課長：同じ方もいらっしゃるが、その時によって変わる。60歳以上の方がほとんどであるが、今回は付き添いの29歳男性や、旅行中の21歳男性がいらした。

中田教育長：この頃台風や豪雨で、スマートフォンの通知が鳴るかと思うが、これは制度変更により、避難準備情報が発信されるようになったものである。以前高齢者施設が流されたことを教訓にして、災害が迫っているとき、警報が出ていない場合でも、避難所を早期に開設し、災害の前に避難していただくように変更された。生駒市では、学校や生涯学習施設が避難

所となり、教育委員会事務局の職員で対応している。学校が避難所開設となれば、学校長・教頭に避難所開設をお願いしている。現場の先生方は、県職員であるが、市の方針にご協力いただき、地域に貢献していただいている。しかし、今回の制度改正により、今後も避難所開設の機会が多くなると、先生方の負担が大きい。また、市職員も市外在住のものも多くいる中で、駆けつけられない。人間的な課題を抱えている。

神澤委員：障がい者や高齢者など、災害弱者への対応をしていただいているが、より一層ご尽力いただきたい。

中田教育長：施設としては、トイレ改修もしており、災害弱者を受け入れられる状態であるが、人間的な課題がある。

神澤委員：知的障害や認知症、精神疾患をお持ちの方は、避難情報の連絡も難しく、また、身体障害者は避難自体に困難を抱えている。生駒市としてこの問題をどのように捉え、対応していくのか。学校教育のネットワークを活用しながら、市の災害部局と連携していただきたい。

中田教育長：市長への問題提起をさせていただくが、教育委員会は災害を担当しているわけではないので、福祉の領域まで教育で対応していくことは難しい。

西井委員：学校は少ない人数で避難所を開設する。食事を買うに行くことすらできない。男女の管理職であれば、気を遣いあい、片方は帰宅したりする。学校管理職については、非常災害時に勤務を要するとあるので、勤務することは当然ではあるのだが、避難所開設していただく先生方に対して、対応体制を整備していただきたい。

○閉会宣告

午前11時2分 閉会